

吉田クリニック院内報

2008年 薫風号

発行：吉田クリニック

〒151-0064 東京都渋谷区上原 1-32-19

TEL：03-5478-6115

ホームページ：http://www.y-cl.com

統合医療

院長 吉田健太郎

3月18日～19日にパシフィコ横浜で開催された統合医療展に、吉田クリニックは初めて参加しました。この統合医療展は、統合医療に関連のある主に健康食品や健康機具を扱う会社を中心となって参加し、年々その数は増えているようです。ただクリニックや病院の参加数はまだ数えるほどしかなく、これからの分野のようでした。この統合医療とは21世紀に入って脚光を浴び始めた医療ですが、狭義には西洋医学に東洋医学を合わせた医学として医療機関の中でのみ扱われ、従来のがわが国の医療の延長線上にあるにすぎません。対して広義の統合医療とは、

健康体操……ヨガ、自強術、真向法

植物療法……アロマセラピー、フラワーエッセンス、ホメオパシー、食養

温水……温泉療法、岩盤浴、ゲルマ温泉浴、森林浴

施術……リフレクソロジー、カイロプラクティック、エステ

など、体に良いといわれるものを西洋医学に限定せずに取り入れていく方法です。

この医療の特徴は体に優しく全人的で、西洋医学にありがちな局所にしか効かず体にきつい（副作用がある）という点を克服するものであります。

吉田クリニックは開業して11年が経ちますが、開業当初から漢方薬を中心とした“体に優しく全身に効果の出る治療”を、西洋医

学に優先して使ってきました。もっともスタート時は漢方にプラセンタ、温泉療法くらいのものでしたが、プロボクシング元東洋ライト級チャンピオン大川寛氏から「コンドロイチンが腰痛に効くから射ってください」と言われ、またビオチンは市川さんという患者さんから「ぜひ使ってください」との要望で7～8年前から採用しました。

患者さんが実際に使って「良い」というものは“治験”が済んでいるわけですから、かなり信頼できます。そこで実際に使ってみると、コンドロイチンは腰痛のみならず整形外科の疾患、とくに膝痛に効き、ついでに顔のシワの予防にもなることがわかりました（実はコンドロイチンはプラセンタの主成分です）。ビオチンもしょうせきのほうじょう掌蹠膿疱症やニキビを初め皮膚科全般に効くことがわかりました。そしてこの両者はプラセンタ同様に副作用がほとんどなく、体に優しいものです。さらに最近では、注射ではありませんが有機ゲルマニウムやルミンを取り入れて活用しています。

以上、ここに挙げた治療法は全て「体に優しく、全身に効いてくる」という点で、まさに統合医療です。そしてこれらの治療法はいずれも医学書や医大の講義で紹介されたものではなく、患者さんが実際に体験して効果の出たものばかりです。加えて副作用が少なく体に優しいのですから、これからもこうした治療法を中心に、統合医療を発展させていきたいと思っています。

新しい医師が医療チームに加わりました。

吉田クリニックはこれまで吉田院長、岡宮医師、小野医師が皆様の診察に当たって参りましたが、さらに幅広い適切な診療の実現を期して、このたび谷口医師、長内医師が医療チームに加わり、新たな体制をととのえることができました。

来院される多くの皆様のご期待にお応えできるように、全員で知恵をしばりながら「すばらしい医療」を目指して参ります。

—どうぞよろしく—

谷口 ひとみ 医師

心療内科医の私は、西洋医学の一般的な治療の弱点にたびたび直面させられました。そんな時に、新しい可能性の扉を開いてくれたのが統合医療という考え方でした。

一言でいえば西洋医学にとらわれず、「心も含めてその人全体を診て治す全人的医療」です。患者様中心に医療を組み立てることの大切さがクローズアップされたのです。

私は中でもアロマセラピー（芳香療法）を診療に取り入れて多くの患者様に喜ばれた経験を通じて、そうした医療の大切さを確信しました。

私は吉田院長が患者様にとって理想的な形で、早くから統合医療を実行していただけることを知り勇気づけられました。



【略歴】1981年、東邦大学医学部卒業。
日本心身医学会、抗加齢医学会、温泉気候物理医学会などに所属。

【資格】日本人間ドック学会認定医、日本抗加齢医学会専門医、日本アロマセラピー学会認定医、日医認定産業医、同健康スポーツ医。

今後はさらにチームの一員として「患者様主体の医療」の実現を目指しながら、素晴らしい可能性を秘めた統合医療の実践に務めたいと思っています。

長内 佳代子 医師

医学部卒業後、大学病院およびその関連病院にて腎・尿路系疾患の治療と血液透析に関わってきました。その中で、西洋医学による対症療法だけでは病気を根本的に治すことは困難なことに気付き、日々の診療に疑問を感じていきます。そんな時に統合医療の考え方に出会い、NPO法人統合医療塾での学びを経て、患者様自身の持つ自然治癒力を引き出ししていくことの大切さを知ります。

そしてその実践の過程で、図らずも先駆者である吉田院長にお会いでき、スタッフに加えていただくことになりました。

願うところは一つ、「常に病気を根本から見つめ直し、本当の健康を獲得するための医療を行いたい」ということです。



【略歴】1987年、東京女子医科大学医学部を卒業と同時に、同大学附属病院腎センター外科に入局。主に腎不全の外科、泌尿器科、血液透析に従事。現在、東京

女子医大附属青山女性・自然医療研究所の非常勤講師。
【資格】日本泌尿器科学会専門医・指導医。日本透析医学会認定医・指導医。

私たちも一丸となってがんばります！



ある日の担当スタッフ（左／受付 右／看護師）



現在、吉田クリニックはスタッフ総勢32名（医師5名、看護師9名、受付9名、総務6名、リハビリ3名）で来院される皆様をお迎えています。

この度、皆様と接する時間を少しでも多くし、反対に待ち時間を少しでも短縮できることを願って、新たに2人の看護師をはじめ、受付にも1名が着任しました。

♡ 新任のごあいさつ ♡

看護師
加藤 恵



幼時から病弱だった私は、「やさしい看護師」になりたい夢を叶えるのに迷いはありませんでした。

郷里に近い福岡での勤務のあと、入院患者様だけでなく、もっと多くの患者様のお世話ができることを願って上京。奉職した病院では代替医療も行っていましたので、知らなかった知識や療法に触れて触発され、向学心に背中を押されて学校に入ったり、講習会などにも通いました。

そのころ吉田院長のご著書も読み、身体を根本から治していく医療や予防の重要性に気づき、ご縁を得て院長のもとで勉強させて頂きながら、患者様とともに「健康づくり」の道を進むことになりました。これからは「誰からも信頼される看護師」を目指し、励んでいきたいと思っています。

看護師
野田 あゆみ



福岡で学業を終えたあと大阪の大学病院や市民病院で過ごした5年間の私は、ごく普通の看護師だ

ったと思います。先輩を見習いながら、やっと自分なりの動きができるようになりましたが、そうなるに優れた先輩たちようになるには、大病院での決まった業務に限らずに、もっと違う現場を体験して見聞を増やすことが大切だと思ったのです。そんなときに見つけた吉田クリニックのホームページの最初に「医者に頼らない、病院に頼らない、薬に頼らない」と書かれているのを見てショックを受け、どうしてもここで勉強したいという思いがつのって上京し、ついに願いを叶えて頂きました。今が第一歩だと思い、先輩や患者様からも多くを学びながら、充実した日々を送っていきたいと思います。

似顔絵作画：左／小山 右／森角（吉田クリニック受付）